

3

Once upon a time in a rural village in England, there lived a boy called Jack, who lived with his mother.

They were very poor, and only owned a cow.

Everyday, Jack milked the cow and sold the milk in the town to buy their food.

However, one day the cow suddenly stopped producing milk. So the mother decided to sell the cow.

“Jack, could you please go to the town and sell the cow?”

“Okay, sure! Leave it to me!”

Jack left the house with the cow.



5

On their way, a strange man asked him,

“Hey, boy. You have a very nice cow there.

Where are you going?”

“I’m going to the market in the town to sell this cow.”

“Right, I see. How about this, would you exchange your cow for this bean I have?”

The man took out three beans from his bag and showed them to Jack.

“These beans aren’t usual beans. They are magical beans, they bring peace and happiness to you.”

Jack couldn't refuse his curiosity and so he decided to swap his cow for three beans.



ここは イギリスの、とある いなかの むらです。

ここに、ジャック という しょうねんが、
ははおやと ふたりで くらしていました。

ジャックの いえには、うしが ひとつ いました。

ジャックは まいにち、うしから しばった ミルクを
まちで おかねに かえて、
たべるものを かっていました。

しかし あるひ、きゆうに うしが
ミルクを ださなくなって しまいました。
ははおやは、うしを てばなすことにしました。

「ジャック、まちへ 行って、うしを うってきておくれ」
「うん、わかった。ぼくに まかせてよ！」

ジャックは、うしを ひいて まちへ むかいました。



ジャックが あるいていると、
ひとりの おじいさんに こえをかけられました。

「おい、ぼうや。いい うしを つれているね。
どこへ いくんだい？」

「うしを うりに、まちの いちばに いくんだ」

「なるほどな。ぼうや、きみの つれている『うし』と、
この『まめ』を とりかえないか？」

おじいさんは かばんから、
さんつぶの まめを とりだし、
ジャックの まえに さしだしました。

「これは ただのまめ ではない。
この まめは『まほうのまめ』だ。
しあわせをはこぶ まめだぞ」

ジャックは、なぜか このまめが ほしくて、
がまんが できなくなって しまいました。
ジャックは、うしと まめを こうかんしました。

